

Power Systems

システム管理サービスの管理

IBM

Power Systems

システム管理サービスの管理

IBM

— お願い —

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、v ページの『安全上の注意』、23 ページの『特記事項』、資料「*IBMSystems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、POWER7 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Power Systems
Managing system management
services

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.9

© Copyright IBM Corporation 2010, 2012.

目次

安全上の注意	v
システム管理サービスの管理	1
システム管理サービスの管理の新機能	1
システム管理サービスの開始	1
論理区画に分割されたサーバーからのシステム管理サービスの開始	2
区画に分割されていないサーバーからのシステム管理サービスの開始	2
ASMI からの SMS メニューの開始	2
ASMI が使用不可であり、システムがスタンバイ・モード場合の SMS メニューの開始	3
システム管理サービスの使用	3
メニューとその説明	3
メインメニューおよびナビゲーション	4
システム管理サービスでの言語の選択	5
リモート IPL のセットアップ	6
BOOTP オプションまたは TFTP オプションの選択	7
iSCSI オプションの選択	9
アダプターの構成	11
速度、全二重オプションの選択	12
プロトコル・オプションの選択	12
SCSI 設定の変更	12
コンソールの選択	13
ブート・オプションの選択	13
デバイスをインストールまたはブートするための選択	13
ブート・デバイス順序の構成	15
マルチブート始動 (Multiboot startup)	19
SAN ゾーニング・サポート	19
電源オン自己診断テスト・キー	20
既存システム管理サービス (Exiting system management services)	21
特記事項	23
商標	24
電波障害自主規制特記事項	25
VCCI クラス A 情報技術装置	25
VCCI クラス B 情報技術装置	25
使用条件	25

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 電源と装置を接続する場合は、必ず IBM 提供の電源コードを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

(D005)

危険

IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

注意

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。
- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(R001)

注意:

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U レベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

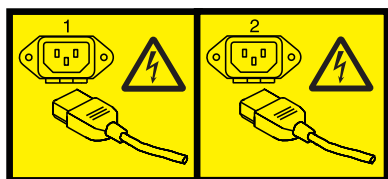
(L001)



(L002)



(L003)



または



すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。 米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。 レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。

注意:

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

注意:

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。(C027)

注意:

この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

注意:

一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

注意:

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ____ 水に投げ込む、あるいは浸す
- ____ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- ____ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェース

は、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

システム管理サービスの管理

システム管理サービス (SMS) 内のメニューを使用して、システムまたは区画についての情報を表示し、ブート・リストの変更やネットワーク・パラメーターの設定などのタスクを実行します。これらのメニューは、AIX® または Linux 論理区画、バーチャル I/O サーバー (VIOS)、および Integrated Virtualization Manager (IVM) に使用できます。

システム管理サービスの管理の新機能

このトピック・コレクションの前回の更新以降の、「システム管理サービスの管理」における新規情報または重要な変更情報についてお読みください。

2013 年 10 月

- 新規オプションである「ISCSI ディスカバリーの選択のための ping テスト」に関する情報が追加されました。このオプションは、クライアント IP アドレス、サーバー IP アドレス、ゲートウェイ IP アドレス、またはサブネット・マスクについて ping テストを実行するために使用します。
 - ISCSI オプションの選択
- ブート順序メニューを構成する際の「デバイス・タイプの選択」のメニュー項目が更新されました。
 - ブート・デバイス順序の構成

2012 年 10 月

- ブリッジされたネットワークにおいて、複数の VLAN をサポートする「拡張セットアップ (Advanced Setup)」オプション用の新規オプションに関する情報が追加されました。このオプションを使用して、物理ネットワーク・リンクを共有します。
 - 7 ページの『BOOTP オプションまたは TFTP オプションの選択』

2012 年 5 月

- ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) ゾーニングをサポートする、ブート・オプション・メニューの新規オプションに関する情報が追加されました。
 - ブート・オプションの選択
 - SAN ゾーニング・サポート

2010 年 2 月

- POWER7® プロセッサを搭載した IBM Power Systems™ サーバーに関する情報が追加されました。

システム管理サービスの開始

区画に分割された、または区画に分割されていないサーバーからシステム管理サービス (SMS) を開始する方法を説明します。

関連概念:

20 ページの『電源オン自己診断テスト・キー』

電源オン自己診断テスト (POST) キーで、サービスを開始したり、システム構成用および問題診断用に使用されるサービス・モード・ブートを開始することができます。

論理区画に分割されたサーバーからのシステム管理サービスの開始

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用して、区画に分割されたサーバーからシステム管理サービス (SMS) を開始する方法を説明します。

論理区画に分割されたシステムがある場合は、次のタスクを実行します。

要件: 論理区画をシャットダウンする必要があります。SMS にアクセスするために、SMS モードで開始するように区画を設定する必要があります。

1. ナビゲーション・エリアで、「システム管理 (Systems Management)」 > 「サーバー (Servers)」を選択します。
2. ナビゲーション領域で、作業を行う管理対象システムを選択します。
3. コンテンツ領域で、作業を行う論理区画を選択します。
4. 「構成 (Configuration)」 > 「プロファイルの管理 (Manage Profiles)」を選択します。
5. 「プロファイルの管理 (Manage Profiles)」ウィンドウで、作業を行う論理区画を選択します。
6. 「アクション」 > 「編集 (Edit)」を選択します。
7. 「設定」タブをクリックします。
8. 「ブート・モード (Boot Modes)」セクションで「SMS」を選択します。
9. 「了解」をクリックします。
10. HMC ウィンドウで「操作 (Operations)」 > 「再始動 (Restart)」を選択して、論理区画を再始動します。コンソールに SMS メニューが表示されます。
11. このセッション用のコンソールがまだない場合は、「端末ウィンドウまたはコンソール・セッションを開く (Open a terminal window or console session)」を選択し、「了解」をクリックします。

システムが始動して、セッションのコンソールに SMS メニューが表示されます。

区画に分割されていないサーバーからのシステム管理サービスの開始

ASMI (Advanced System Management Interface) またはコントロール・パネルを使用するか、あるいは AIX オペレーティング・システムから、システム管理サービス (SMS) メニューを開始する方法を説明します。

ASMI からの SMS メニューの開始

ネットワーク接続されたコンソールで ASMI が使用可能であり、システムがスタンバイ・モードの場合は、次のステップを実行します。

1. 「ASMI へようこそ」ウィンドウで、ユーザー ID とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。
2. ナビゲーション領域で、「電源/再始動制御」を展開し、「システムの電源オン/オフ」を選択します。
3. 「設定の保管」をクリックして、システム・サーバー・ファームウェアのブートを続行します。
4. POST インジケーター (**memory**、**keyboard**、**network**、**scsi**、**speaker**) を見つけます。これらはファームウェア・コンソールの下部に表示されています。詳しくは、20 ページの『電源オン自己診断テスト・キー』を参照してください。
5. 「**keyboard**」が表示されたら、「**speaker**」が表示される前に、数字キー 1 を押します。

6. 要求された場合は、ファームウェア使用条件に同意します。
7. 要求された場合は、言語を選択します。 選択可能な言語について詳しくは、システム管理サービスでの言語の選択を参照してください。
8. 要求された場合は、パスワードを入力します。 システムの初期セットアップ時に設定した管理者パスワードを入力してください。

ASMI が使用不可であり、システムがスタンバイ・モード場合の SMS メニューの開始

ASMI が使用不可であり、システムがスタンバイ・モードの場合は、次のステップを実行します。

1. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。
2. POST インジケータ (memory、 keyboard、 network、 scsi、 speaker) を見つけます。これらはファームウェア・コンソールの下部に表示されています。 詳しくは、20 ページの『電源オン自己診断テスト・キー』を参照してください。
3. 「keyboard」が表示されたら、「speaker」が表示される前に、数字キー 1 を押します。
4. 要求された場合は、ファームウェア使用条件に同意します。
5. 要求された場合は、言語を選択します。 選択可能な言語について詳しくは、システム管理サービスでの言語の選択を参照してください。
6. 要求された場合は、パスワードを入力します。 システムの初期セットアップ時に設定した管理者パスワードを入力してください。

システム管理サービスの使用

システム管理サービス (SMS) メニューがシステムの管理にどのように役立つかについて説明します。

関連タスク:

1 ページの『システム管理サービスの開始』

区画に分割された、または区画に分割されていないサーバーからシステム管理サービス (SMS) を開始する方法を説明します。

メニューとその説明

システム管理サービス (SMS) メニューを使用してアクセスできるタスクが多数あります。

システム管理サービスを開始するためのステップを実行していない場合は、1 ページの『システム管理サービスの開始』を参照します。

注:

- ファームウェア・コンソールがグラフィックス端末の場合は、Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して設定されたサービス・プロセッサの管理者ユーザー用パスワードの入力が必要な場合があります。
- 区画に分割されたサーバーでは、ブートしようとする区画に割り当てられている各デバイスのみが SMS メニューに表示されます。 サーバーにある全リソースを使用する区画では、そのシステム内のデバイスがすべて SMS メニューに表示されます。
- 以下の一部のメニュー例では、読みやすくするために `Ufeature_code.model.serial number` の代わりに `Un` を使用しています。

SMS メニューを使用してアクセスできるメニューまたはタスクの表題を次の表に示します。 この表を使用して、必要なタスクにアクセスおよび検討を行います。 これらの表題とメニューの内容は変更される可能性があります。 内容が正確にスクリプト記述のとおりになるとは限りません。

表 1. SMS メニューとその説明

メニューまたはタスク	説明
メインメニュー (Main menu)	SMS を最初に開始したときの開始メニューが表示されます。
言語の選択 (Select language)	SMS メニューで使用する言語を変更できます。
リモート IPL のセットアップ (Setup remote IPL)	サーバーのリモート始動機能を使用可能にし、セットアップすることができます。
アダプター構成 (Adapter configuration)	ネットワークの速度とプロトコルの両方を設定できます。
速度、全二重 (Speed, duplex)	アダプターが稼働するインターフェース速度を設定でき、半二重または全二重を選択できます。
Protocol	ネットワーク用に適切なプロトコルを設定できます。
Ping テスト (Ping test)	アダプターのリモート・システムとのネットワーク接続をテストできます。
拡張セットアップ: BOOTP (Advanced setup: BOOTP)	BOOTP 値を変更できます。
SCSI 設定の変更 (Change SCSI settings)	システムに接続された SCSI コントローラーのアドレスを変更できます。
コンソールの選択 (Select console)	SMS メニューの表示に使用するコンソールを選択できます。
ブート・オプションの選択 (Select boot options)	インストール・デバイスおよびブート・デバイスに関する各種のオプションを設定できます。「ブート・オプションの選択」メニューのオプションには、「インストール・デバイスまたはブート・デバイスの選択 (Select Install or Boot Device)」、「ブート・デバイスの選択 (Select Boot Devices)」、マルチブート始動 (Multiboot Startup)」、および「SAN ゾーニング・サポート (SAN Zoning Support)」があります。
通常モード・ブートまたはサービス・モード・ブート (Normal mode boot or service mode boot)	システムに通常モードまたはサービス・モードでブートを実行できます。
ハード・ディスク (Hard drive)	システムにインストールされている各種のタイプのブート可能ディスク・ドライブ (例えば、SCSI) を識別するメニューが表示されます。
ブート順序の設定 (Set boot sequence)	ブート・リスト内のデバイスの位置を設定できます。「ブート順序の設定」メニューのオプションには、「現在の設定の表示」、「デフォルト設定の復元」、「マルチブート始動」、および「既存システム管理サービス」があります。

メインメニューおよびナビゲーション

メインメニューでは、言語の選択、リモート IPL のセットアップ、SCSI 設定の変更、コンソールの選択、およびブート・オプションの選択を行うことができます。

SMS が開始されると、次の例のようなメニューが表示されます。

Main Menu

1. Select Language
2. Setup Remote IPL (Initial Program Load)
3. Change SCSI Settings
4. Select Console
5. Select Boot Options
6. Firmware Boot Side Options
7. Progress Indicator History

Navigation keys:

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

メインメニュー以外のすべてのメニューでは、次のようなナビゲーション・キーが使用できます。

M 「メインメニュー (main menu)」に戻ります。

ESC 直前のメニューに戻ります。

X SMS を終了し、オペレーティング・システムを始動します。

「X」を入力すると、SMS メニューを終了してオペレーティング・システムを始動するという選択の確認が求められます。

複数のページにわたって表示される情報がある場合は、次の 2 つの追加ナビゲーション・キーが使用できます。

N リストの次のページを表示します。

P リストの直前のページを表示します。

注: 小文字のナビゲーション・キーは、メニューに表示される大文字のキーと同じ効果を持ちます。例えば、**m** または **M** でメインメニューに戻ります。

どのメニューでも、メニュー項目を選択して Enter キーを押す (当てはまる場合) か、あるいはナビゲーション・キーを選択することができます。

システム管理サービスでの言語の選択

システム管理サービスの言語オプションの範囲内で言語を選択できます。

「言語の選択 (Select Language)」オプションを選択すると、SMS メニューで使用する言語を変更できます。

注: 「言語の選択 (Select Language)」オプションを選択して言語を変更しても、ファームウェア SMS メニューで使用する言語のみが変更され、オペレーティング・システムの言語は変更されません。

注: お客様が ASCII 端末を使用している場合、英語以外の言語を正しく表示するにはこの端末が ISO-8859 文字セットをサポートしている必要があります。

次の言語を利用できます。

1. ISO8859-1 英語 (米国)
2. ISO8859-1 フランス語
3. ISO8859-1 ドイツ語
4. ISO8859-1 イタリア語

5. ISO8859-1 スペイン語
6. ISO8859-1 ポルトガル語 (ブラジル)
7. BIG5 中国語 (繁体字)
8. GB2312 中国語 (簡体字)
9. EUC-JP 日本語
10. EUC-KR 韓国語
11. UTF-8 英語 (米国)
12. UTF-8 スペイン語
13. UTF-8 フランス語
14. UTF-8 ドイツ語
15. UTF-8 イタリア語
16. UTF-8 ポルトガル語 (ブラジル)
17. UTF-8 中国語 (繁体字)
18. UTF-8 中国語 (簡体 UTF)
19. UTF-8 日本語
20. UTF-8 韓国語

リモート IPL のセットアップ

(SMS) メニューを使用してリモート IPL (初期プログラム・ロード) をセットアップする方法について説明します。

「リモート IPL のセットアップ (Setup Remote IPL)」オプションを選択すると、サーバーまたは論理区画のリモート・スタートアップ機能を使用可能にし、セットアップすることができます。サーバー内のネットワーク・インターフェース・カード (NIC) アダプターのリストが表示されます。このメニュー例を以下に示します。

重要: 区画に分割されたサーバーでは、ブートされている区画に割り当てられているネットワーク・アダプターのみが「NIC アダプター (NIC Adapters)」メニューに表示されます。単一パーティションのシステムでは、システム内のすべてのネットワーク・アダプターが「アダプター・パラメーター (adapter parameters)」メニューにリストされます。

「NIC アダプター (NIC Adapters)」メニューの例を以下に示します。

NIC Adapters

Device	Slot	Hardware Address
1. Port 1 - 2 PORT Gigabit Et	Un-P1-T9	00096bff616b
2. Port 2 - 2 PORT Gigabit Et	Un-P1-T10	00096bff616a
3. 10/100/1000 Base-TX PCI-X	Un-CB1-C03-T1	000295e3814f

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

アダプターを選択すると、次の例のようなメニューが表示されることがあります。

Select Internet Protocol Version.

1. IPv4 - Address Format 123.231.111.222
2. IPv6 - Address Format 1234:5678:90ab:cdef:1234:5678:90ab:cdef

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

Select Network Service

No alias : Port 1-IBM Host Ethernet Adapter: Un-P1-T6

1. BOOTP
2. iSCSI

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

注: 表示されるメニューはこれまでの選択に応じて異なります。例えば、IPv6 を選択した場合は、Trivial File Transfer Protocol (TFTP) ブート用にネットワーク・インターフェース・カード (NIC) を構成できます。IPv4 を選択した場合は、BOOTP 用に NIC を構成できます。

関連タスク:

3 ページの『システム管理サービスの使用』

システム管理サービス (SMS) メニューがシステムの管理にどのように役立つかについて説明します。

BOOTP オプションまたは TFTP オプションの選択

BOOTP オプションまたは **TFTP** オプションを選択した場合、アダプターは通常通りにセットアップされます (ネットワーク・パラメーターが入力されます)。「ネットワーク・パラメーター (Network Parameters)」メニューが表示されます。

「ネットワーク・サービスの選択 (Select Network Service)」メニューで **BOOTP** オプションまたは **TFTP** オプションを選択すると、「ネットワーク・パラメーター (Network Parameters)」メニューが表示されます。表示されるメニューとオプションは、「インターネット・プロトコル・バージョンの選択 (Select Internet Protocol Version)」メニューで IPv4 または IPv6 のいずれを選択したかに応じて異なります。次の例のようなメニューが表示されます。

Network Parameters

Port 1 - 2 PORT Gigabit Et Un-P1-T9 00096bfff616b

1. IP Parameters
2. Adapter Parameters
3. Ping Test
4. Advanced Setup: BOOTP/TFTP

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

「IP (インターネット・プロトコル) パラメーター・オプションを選択すると、次の例のようなメニューが表示されます。

IP Parameters

Port 1 - 2 PORT Gigabit Et Un-P1-T9 00096bfff616b

1. Client IP Address [9.8.38.50]
2. Server IP Address [9.8.38.51]
3. Gateway IP Address [9.8.38.1]
4. Subnet Mask [255.255.255.000]

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

IP パラメーターを変更するには、値を変更したいパラメーターの番号を入力します。このメニューで IP パラメーターを入力すると、「ping テスト (ping test)」メニュー上のパラメーターが自動的に更新されます。

「ネットワーク・パラメーター (Network Parameters)」メニューから「**Ping テスト (Ping Test)**」オプションを選択すると、アダプターのリモート・システムへのネットワーク接続をテストできます。ping テスト・オプションを選択した後、「Ping テスト (Ping Test)」メニューが表示されます。構成オプションを選択して ping テストを実行してください。

注:

- ping テストの開始後、結果が戻されるまでに 60 秒以上かかる場合があります。
- ping テストの成功時または失敗時に、ファームウェアは停止し、あるキーが押されるまでスタンバイしてから続行します。

「ネットワーク・パラメーター (Network Parameters)」メニューから「**拡張セットアップ (Advanced Setup)**」オプションを選択して、ブート・パラメーター BOOTP または TFTP を構成します。BOOTP の場合、値 5、512、5、0 および 0 は、それぞれ次のオプションのデフォルト値です。

Advanced Setup: BOOTP/TFTP

Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: U788D.001.23A0034-P1-T7

1. Bootp Retries 5
2. Bootp Blocksize 512
3. TFTP Retries 5
4. VLAN Priority 0
5. VLAN ID 0

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

「拡張セットアップ (Advanced Setup)」メニューから「**VLAN 優先順位 (VLAN Priority)**」オプションを選択して VLAN 優先順位を設定し、「**VLAN ID**」オプションを選択して VLAN ID を設定します。

注:

- **VLAN 優先順位**オプションのデフォルト設定は 0 ですが、フレーム優先順位には 0 から 7 の範囲の 10 進数値を設定できます。
- 7 より大きい値が入力されると、エラー・メッセージが表示されます。この場合、デフォルト値が **VLAN 優先順位**オプションに戻されます。
- **VLAN ID** オプションのフレームはいずれの VLAN にも属していないため、このオプションのデフォルト値は 0 で予約済みです。
- 値は 10 進数で入力する必要があります。**VLAN ID** の有効値は 1 から 4094 の範囲になければなりません。**VLAN ID** オプションが 0 に設定されると、VLAN タグ付けは無効になります。
- 4094 より大きい 10 進値が入力されると、エラー・メッセージが表示されます。この場合、デフォルト値が **VLAN ID** オプションに戻されます。

ISCSI オプションの選択

「**ISCSI**」を選択すると、どの iSCSI 別名をネットワーク・パラメーターによりセットアップするかを選択できます。また「一度のみブート (boot once)」オプションもあります。このオプションでは、iSCSI パラメーターは保管されません。iSCSI メニューを完了すると、「システム管理サービスの使用 (Using system management services)」にリストされている、その他の任意のメニューまたはタスクを選択できます。

ISCSI Alias Selection

No alias : Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: Un-P1-T7

1. ISCSI_DISK1
2. ISCSI_DISK2

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

ISCSI 別名を選択した場合、「**iSCSI ディスカバリー選択 (ISCSI Discovery Selection)**」メニューが表示されます。

ISCSI Discovery Selection

iscsi_disk1: Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: Un-P1-T7

1. Enter Static Parameters.
2. Ping Test.

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

「ping テスト」を選択すると、次の例のようなメニューが表示されます。

ISCSI Ping Test Parameters

iscsi_disk1: Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: Un-P1-T7

Client IP Address

Server IP Address

Gateway IP Address

Subnet Mask

1. Execute ping test

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

「静的パラメーターの入力 (Enter Static Parameters)」を選択すると、「iSCSI イニシエーター・パラメーター (ISCSI Initiator Parameters)」メニューが表示されます。

ISCSI Initiator Parameters

iscsi_disk1: Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: Un-P1-T7

1. Client IP Address []
2. Gateway IP Address []
3. Subnet Mask []
4. Initiator Name.
5. Enter Target Parameters.

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

「ISCSI ターゲット・パラメーター (ISCSI Target Parameters)」メニューを使用して、ターゲット・パラメーターを設定します。

ISCSI Target Parameters

iscsi_disk1: Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: Un-P1-T7

1. Target IP Address []
2. ISCSI PORT [3260]
3. Target lun [0]
4. Set ISCSI Target Name

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

「ターゲット名 (Target Name)」を選択して、ターゲット名を設定します。「iSCSI イニシエーター・パラメーター (ISCSI Initiator Parameters)」メニューで「イニシエーター名の設定 (Set Initiator Name)」を選択するか、「iSCSI ターゲット・パラメーター (ISCSI Target Parameters)」メニューで「iSCSI ターゲット名の設定 (Set ISCSI Target Name)」を選択すると、次の例のようなメニューが表示されます。

Enter Target Name

iscsi_disk1: Port 1-IBM 2 PORT 1000 Base-SX PCI-X Adapter: Un-P1-T7

Must be at least 4 characters.
Press Backspace key to delete.
Press Enter key to save.
Press Esc key to exit without saving name.

1. Clear Current Name.
 2. Edit Current Name.
- []

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type menu item number and press Enter or select Navigation key: _

iSCSI ネットワークのために NIC アダプター (NIC Adapters) メニューで選択したアダプターがネットワーク・アダプター (例えば、イーサネット) であった場合は、イニシエーター名が必要です。選択したアダプターがイーサネット上の TCP/IP または TCP/IP オフロード・エンジン・アダプターの場合は、イニシエーターの名前はアダプターのマイクロコード内にあり、ユーザーが設定する必要はありません。

アダプターの構成

ネットワーク速度とプロトコルを設定できます。

「アダプター構成 (Adapter Configuration)」オプションを選択すると、次のメニューに示すように、ネットワーク速度の設定とプロトコルの設定を行うことができます。

Adapter Configuration

Port 1 - 2 PORT Gigabit Et Un-P1-T9 00096bff616b
1. Speed, Duplex
2. Protocol

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

速度、全二重オプションの選択

「速度、全二重 (Speed, Duplex)」オプションを選択すると、次の「アダプター構成 (Adapter Configuration)」メニューが表示されます。

「速度、全二重 (Speed, Duplex)」メニューの一例を次に示します。 このメニューで選択できるオプションは、選択されたアダプターの能力に応じて異なります。 このアダプターが稼働するインターフェース速度を設定できます。

Speed, Duplex

Port 1 - 2 PORT Gigabit Et Un-P1-T9 00096bff616b
1. auto, auto

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

プロトコル・オプションの選択

「プロトコル (Protocol)」オプションを選択すると、ネットワークに適切なプロトコルを設定できます。

「プロトコル」メニュー例を以下に示します。

Protocol

Port 1 - 2 PORT Gigabit Et Un-P1-T9 00096bff616b
1. Standard <===
2. IEEE802.3

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

SCSI 設定の変更

ご使用のシステムに接続された SCSI コントローラーのアドレスを表示し、変更することができます。

「**SCSI 設定の変更 (Change SCSI Settings)**」オプションを選択すると、ご使用のシステムに接続された SCSI コントローラーのアドレスを表示し、変更することができます。

SCSI Utilities

1. Hardware Spin Up Delay
2. Change SCSI Id

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

コンソールの選択

SMS メニューの表示に使用するコンソールを選択できます。

コンソールの選択 (Select Console)」オプションを選択すると、SMS メニューの表示に使用するコンソールを選択できます。この選択は、SMS メニュー用のみであり、オペレーティング・システムが使用するコンソールには影響しません。

コンソールに表示される指示に従ってください。コンソールを選択すると、ファームウェアは自動的に SMS メインメニューに戻ります。

注: 現行コンソールの除去前にこのコンソールを別デバイスに変更していない場合は、コンソール選択の変更のためにこの現行コンソールを再接続する必要があります。

ブート・オプションの選択

デバイスのインストールまたはブート、ブート・デバイス順序の構成、マルチブート始動オプションの選択、あるいはストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) ゾーニング・サポート・オプションの選択を行います。

デバイスをインストールまたはブートするための選択

次のブートについてのみ、オペレーティング・システムをブートしたり、オペレーティング・システムをインストールしたりするデバイスを選択します。不揮発性ランダム・アクセス・メモリー (NVRAM) に保管されたブート・リストは、変更されません。

「**インストールまたはブートするデバイスの選択 (Select Install/Boot a Device)**」オプションを選択して、インストール・デバイスおよびブート・デバイスに関するさまざまなオプションを表示し、設定します。

1. Select Install/Boot a Device
2. Configure Boot Device Order
3. Multiboot Startup [OFF]
4. SAN Zoning Support

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

次の例のようなメニューが表示されます。

Select Device Type

1. Diskette
2. Tape
3. CD/DVD
4. IDE
5. Hard Drive
6. Network
7. List All Devices

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

「ハード・ディスク (Hard Drive)」を選択すると、次の例のようなメニューが表示されます。

Select Hard Drive Type

1. SCSI
2. SSA
3. SAN
4. SAS
5. SATA
6. USB
7. IDE
8. ISA
9. List All Devices

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

例えば、「SCSI」を選択すると、システム内にあるか、論理区画に割り当てられたすべての SCSI アダプターが、次のメニューに表示されます。 ご使用のシステムにインストールされているデバイスに応じて、次のようなメニューが表示されます。

Version EM310_024

SMS 1.6 (c) Copyright IBM Corp. 2000, 2005 All rights reserved.

Select Media Adapter

1. Un-P1-T14 /pci@800000002000000d/pci@2/pci1069,b166@1/scsi@0
2. Un-P1-T12 /pci@800000002000000f/pci@2,2/pci1069,b166@1/scsi@0
3. Un-P1-T13 /pci@800000002000000f/pci@2,2/pci1069,b166@1/scsi@1
4. List all devices

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

アダプターを選択すると、次のメニューに、そのアダプターに接続されている要求されたタイプのブート可能デバイスが表示されます。次の例では、最初のアダプターに接続されているすべてのブート可能 SCSI ハード・ファイルがリストされています。

```
Version EM310_024
SMS 1.6 (c) Copyright IBM Corp. 2000, 2005 All rights reserved.
-----
Select  Device
Device  Current  Device
Number  Position  Name
-----
1         1      SCSI 73407 MB Harddisk Un-P1-T14 /pci@80000002000000d/pci02/
                    pci1069,b16601/scsi00
-----
Navigation keys:
M = return to main menu
ESC key = return to previous screen      X = eXit System Management Services
-----
Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _
```

これで、このインストールまたはブートに適切なデバイスを選択できます。

オペレーティング・システムのインストール用またはブート元のデバイスを選択した後で「タスクの選択 (Select Task)」メニューを使用すると、そのデバイスについてさらに情報を取得したり、そのデバイスから通常モードまたはサービス・モードでブートを行ったりすることができます。このメニュー例は、以下の通りです。

```
Select Task

SCSI 36401 MB Harddisk, part=2 (AIX 5.3.0)
(loc=U788D.001.06A0034-P1-T10-L1-L0)

1. Information
2. Normal Mode Boot
3. Service Mode Boot
-----
Navigation keys:
M = return to main menu
ESC key = return to previous screen      X = eXit System Management Services
-----
Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _
```

「通常モード・ブート (Normal Mode Boot)」あるいは「サービス・モード・ブート (Service Mode Boot)」のいずれを選択した場合も、次のメニューで「よろしいですか? (Are you sure)」と確認を求められます。「はい (yes)」と応答した場合は、デバイスが該当のモードでブートされます。「いいえ (no)」と応答した場合は、ファームウェアは「タスクの選択 (Select Task)」メニューに戻ります。

ブート・デバイス順序の構成

カスタマイズ・ブート・リストを表示および変更することができます。

ブート可能デバイスを検索する時間を最小化するために、これらのメニューは以下の階層形式に従います。

デバイス・タイプ > バス・タイプ > アダプター > アダプターに接続されたデバイス

「デバイス・タイプの選択」メニューまたは「メディア・タイプの選択」メニューの「すべてのデバイスをリスト」を選択すると、本来ブート可能なすべてのデバイスを一度に表示できます。ブート可能なハード・ディスクのみがリストされます。

「すべてのデバイスをリスト」機能は時間がかかる可能性があり、また、大容量ディスク・アレイなど、多くの入出力アダプターとデバイスを使用する大規模システムでは完了しない場合があります。ただし、次のように選択すると、選択されたアダプターのみにスキャンが限定されるため、すべてのデバイスのスキャンに必要な総時間が短縮されます。

デバイス・タイプ (例えば、ハード・ディスク) > インターフェース・タイプ (例えば、SCSI) > 特定のアダプター

「ブート・デバイスの選択 (Select Boot Devices)」オプションを選択してカスタマイズ・ブート・リストの表示と変更を行います。このブート・リストは、始動時に各デバイスを読み取る順序を示します。

Configure Boot Device Order

1. Select 1st Boot Device
2. Select 2nd Boot Device
3. Select 3rd Boot Device
4. Select 4th Boot Device
5. Select 5th Boot Device
6. Display Current Setting
7. Restore Default Setting

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

オプション 1 から 5 のいずれかを選択した場合、「デバイス・タイプの選択 (Select Device Type)」メニューが表示されます。

Select Device Type

1. Diskette
2. Tape
3. CD/DVD
4. IDE
5. Hard Drive
6. Network
7. List All Devices

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

「デバイス・タイプの選択」メニューまたは「メディア・タイプの選択」メニューの「すべてのデバイスをリスト」を選択すると、本来ブート可能なすべてのデバイスを一度に表示できます。ブート可能なハード・ディスクのみがリストされます。「すべてのデバイスをリスト」機能は時間がかかる可能性があり、また、大容量ディスク・アレイなど、多くの入出力アダプターとデバイスを使用する大規模システムでは完了しない場合があります。ただし、「デバイス・タイプ (例えば、ハード・ディスク)」 > 「インターフェース・タイプ (例えば、SCSI)」 > 「特定のアダプター」のように選択すると、選択されたアダプターのみにスキャンが限定されるため、すべてのデバイスのスキャンに必要な総時間が短縮される可能性があります。

オプション 5 などのデバイス・タイプを選択すると、「メディア・タイプの選択 (Select Media Type)」メニューが表示されます。このメニュー例は、以下の通りです。

Select Media Type

1. SCSI
2. SSA
3. SAN
4. SAS
5. SATA
6. USB
7. IDE
8. ISA
9. None
10. List All Devices

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

メディア・タイプを選択すると、そのタイプのアダプターがすべて「メディア・アダプターの選択 (Select Media Adapter)」メニューに表示されます。SCSI メディア・タイプ用のメニュー例は、以下の通りです。

Version EM310 024

SMS 1.6 (c) Copyright IBM Corp. 2000, 2005 All rights reserved.

Select Media Adapter

1. Un-P1-T14 /pci@800000002000000d/pci@2/pci1069,b166@1/scsi@0
2. Un-P1-T12 /pci@800000002000000f/pci@2,2/pci1069,b166@1/scsi@0
3. Un-P1-T13 /pci@800000002000000f/pci@2,2/pci1069,b166@1/scsi@1
4. None
5. List all devices

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

次に、各アダプターを個々に選択して、そのアダプターに接続されたブート可能なデバイスを表示します。アダプターに接続されたブート可能なデバイスがない場合、エラー・メッセージが表示されます。このメニューの例を以下に示します。この例では、上記の例での最初のアダプターに対応します。

```

Version EM310_024
SMS 1.6 (c) Copyright IBM Corp. 2000, 2005 All rights reserved.
-----
Select      Device
Device      Current   Device
Number      Position   Name
-----
1           1         SCSI 73407 MB Harddisk Un-P1-T14 /pci@80000002000000d/pci@2/
                        pci1069,b166@1/scsi@0
2.          None
-----
Navigation keys:
M = return to main menu
ESC key = return to previous screen          X = eXit System Management Services
-----
Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

```

デバイス・タイプを選択すると、「タスクの選択 (Select Task)」メニューでそのデバイスに関する詳細情報を表示、またはブート・リストにあるデバイス位置を設定できます。(ブート可能なディスクのみがリストされることに注意してください。) ハード・ディスク用のメニュー例は、以下の通りです。

```

Select Task

SCSI 36401 MB Harddisk Un-P1-T14 /pci@80000002000000d/pci@2/pci1069,b166@1/scsi@0
1. Information
2. Set Boot Sequence: Configure as 1st Boot Device
-----
Navigation keys:
M = return to main menu
ESC key = return to previous screen          X = eXit System Management Services
-----
Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

```

上記メニューの「情報 (Information)」を選択すると、ハード・ディスクについて以下のようなメニューが表示されます。

```

Device Information
/pci@80000002000000d/pci@2/pci1069,b166@1/scsi@1/sd@5,0
      : (Bootable)
DEVICE      : SCSI 73407 MB Harddisk Un-P1-T14 /pci@80000002000000d/pci@2/
                        pci1069,b166@1/scsi@0
NAME        : sd
DEVICE-TYPE : block
-----
Parent Information
IBM,FW-ADAPTER-NAME: Ultra-320
NAME         : scsi
DEVICE-TYPE  : scsi-2
-----
Navigation keys:
M = return to main menu
ESC key = return to previous screen          X = eXit System Management Services
-----
Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

```

「現在の設定の表示 (Display Current Settings)」を選択すると、カスタマイズ・ブート・リストの現在の設定が表示されます。

このメニュー例 (ブート・リストに 1 つのデバイスがある場合) は、次の通りです。

```
Current Boot Sequence

1. SCSI 73407 MB Harddisk Un-P1-T14 /pci080000002000000d/pci02/pci1069,b166@1/scsi00
2. None
3. None
4. None
5. None

-----
Navigation keys:
M = return to main menu
ESC key = return to previous screen          X = eXit System Management Services
-----
Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _
```

デフォルトの設定の復元 (Restore Default Settings)」オプションを選択すると、ブート・リストがデフォルトのブート・リストに復元されます。

デフォルトのブート・リストは、システムにインストールされているデバイスによって異なります。デフォルトのブート・リストは次の通りです。

1. プライマリー・ディスク・ドライブ (インストールされている場合)
2. 光ディスク・ドライブ (インストールされている場合)
3. テープ・ドライブ (インストールされている場合)
4. ハード・ディスク (インストールされている場合)
5. ネットワーク・アダプター

マルチブート始動 (Multiboot startup)

マルチブート始動フラグを有効にすると、システムが始動するたびに SMS メニューでシステムが停止します。これにより、別のデバイスからシステムを始動することが可能になります。

SAN ゾーニング・サポート

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) ゾーニングのオプションを使用すると、すべてのファイバー・チャネル・アダプター (ブートする区画に割り当てられている仮想ファイバー・チャネル・アダプターを含む) で SAN ゾーニングを実行できます。

アダプターを選択すると、選択されたアダプターが開き、ゾーニング・アクティビティー中はずっと開いたままになります。これにより、スイッチがそのアダプターのワールドワイド・ポート番号とワールドワイド・ノード名を判別できます。

「SAN ゾーニング・サポート (SAN Zoning Support)」オプションを選択します。次の例のようなメニューが表示されます。

```
PowerPC Firmware
Version ZL740_052
SMS 1.7 (c) Copyright IBM Corp. 2000,2008 All rights reserved.
```

Select Media Adapter

1. U78AA.001.WIH0029-P1-C7-T1 /pci@800000002000000d/fibre-channel@0

Navigation keys:

M = return to main menu

ESC key = return to previous screen

X = eXit System Management Services

Type the number of the menu item and press Enter or Select a Navigation key: _

アダプターを選択すると、次の例のようなメニューが表示されます。

```
-----
The selected adapter has been opened.
Zoning of attached disks may now be possible.
Press any key to close the adapter and return to the previous menu.
-----
```

電源オン自己診断テスト・キー

電源オン自己診断テスト (POST) キーで、サービスを開始したり、システム構成用および問題診断用に使用されるサービス・モード・ブートを開始することができます。

電源がオンになってから、オペレーティング・システムがロードされる前までに、システムは、電源オン自己診断テスト (POST) を行います。このテストは、オペレーティング・システムがロードされる前に、ハードウェアが正しく機能していることを確認するための検査を行います。POST 実行中は、POST 画面が表示され、POST インジケーターがファームウェア・コンソール (接続されている場合) に表示されます。

「keyboard」POST インジケーターの表示後で、最後の POST インジケーター「speaker」の表示前に POST キーを押すと、システムはサービスを開始するか、あるいはシステムの構成および問題の診断に使用されるサービス・モード・ブートを開始します。

注: サービス・プロセッサに接続されているキーボード上の PF キー (F1 から F12) は使用されず、無視されます。「keyboard」POST インジケーターの表示後は、数字キーを使用する必要があります。

数字キー 1

POST 中に数字キー 1 を押すと、システム管理サービス (SMS) インターフェースを開始します。

数字キー 5

POST 中に数字キー 5 を押すと、デフォルトのサービス・モード・ブート・リストを使用してサービス・モードでのシステム・ブートを開始します。

このモードでは、リストで検出された各タイプの最初のデバイスからのブートが試行されます。最初のデバイスがブート可能ではない場合、このモードでは、同タイプのほかのブート可能デバイスを検索しません。その代わりに、リスト内の次のデバイス・タイプに移ります。

デフォルトのブート順序は次の通りです。

1. ディスケット (インストールされている場合)
2. CD-ROM (インストールされている場合)
3. テープ・ドライブ (インストールされている場合)
4. ハード・ファイル
5. ネットワーク

数字キー 6

数字キー 6 は数字キー 5 と同様に機能します。

既存システム管理サービス (Exiting system management services)

SMS メニューの使用が完了したら、「x (終了)」を入力して、システムをブートします。

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、製造元の担当者にお尋ねください。本書で、製造元の製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、このことは当該製品、プログラム、またはサービスだけが使用可能であることを意味するものではありません。これらの製品、プログラム、またはサービスに代えて、製造元の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品、プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

製造元は、本書で解説されている主題について特許権（特許出願を含む）を所有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、製造元に書面にてご照会ください。

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。本書は特定物として「現存するまま」の状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。製造元は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において製造元所有以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

製造元は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になんら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同等である保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

製造元以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。製造元は、それらの製品のテストを行っておりません。したがって、製造元以外の他社の製品に関する実行性、互換性、またはその他の損害賠償請求については確証できません。製造元以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

製造元の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている製造元の価格は製造元が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、製造元の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

製造元は、指定された特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、製造元は何ら保証責任を負いません。

製造元のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に製造元の Web サイトをチェックする必要があります。

認定ステートメント

本製品は、お客様の国で、いかなる方法においても公共通信ネットワークのインターフェースへの接続について認定されていない可能性があります。そのような接続を行うには、事前に法律によるさらなる認定が必要です。ご不明な点がある場合は、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

電波障害自主規制特記事項

VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

VCCI クラス B 情報技術装置

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan